雲かくし

特別
14
696
208

宮城県図書館蔵

特 696 208

雲かくれの巻

かくあり正月の御ぶおさめ過ぎ

ぬ。ことしの春ひたちの国へ

なのりくだりまに物語忍ぶこれ

うの子にこれ書うて出さてうさ

ぶこれのものをそ。ゆり御まいれ小く

おりう忍ぶあ年代むつ御しくちさま

せんとそ。ものしてもしてお後のの

ちの後ちの御のものたる下ちれけて

ものに人ち物ちこの方ち色ちそ書

かるかまいいと成ちて日あ中うかく書

事ちいをく代代ハや御ち法井の松ち

をうちしうの方ちて行ちぬ。四まのち

小倉藩 玉日郡矢原

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七年ゝ第[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

院小弐入道おなじくこれをむすぶ此事を
なげきしく思ひ院にまゐりてこの事
申しなぐさめたてまつる中し
二度ばかりまゐり給ひて
人々四のはりふたりとおぼしめしたる
ゆえなりきりきりたてまつれ
せたまふこと以ての外なりやはとおぼし
ぬれどもおぼしきりてとゞまんのおぼしめ
さるべきことにてなければ
ひくらしくらしふるまひ
めしとゞめんことなかりけるとぞ
きこえけるの御おとゝとくとゞまる大
事は源氏物語にこまかにかゝれ
たるとぞ
かゝれたるの人々仏の
ことにて又ものも
ことに道ひとすぢにおぼしいれてかゝるこ
とのかのうしなくまの御ものの大空にふきで
ものにて日月をもおぼしわすれ
給ふ我もあくまに化をしたまへば
あるべきやうにもあらず
又ものもしらぬ人のあるべき
ものにさしたる上人といひまゐ
らせんずるものの心
ばせもあるべきにもあらざる
ものとぞあはれ何事も人間ふかくと有ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

生田の[illegible]

月数[illegible]の袖にかゝるぬを

やをれたてのかゝくと上邦

なつかしくをかれふとゆめひく

[illegible]

[illegible]の月[illegible]

くのこおりしら分身とものさう(おと)

[illegible]

ぬよりあるなたをいかるたれ[illegible]

[illegible]

さをと人

四の御しくおく(ぬよのさう(おと)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

このまつをさし二の君さしたまふものと
三御神楽をうたんとおぼしくきあ
ものしたまふいとくらしゆめのうちと
こゝろをうるすなりふしゆめあるも
はおしくまことにいまはかくれ
ぬるを愛小まつをうつしきら
ふけかしこ御おりけるもふるく
ゆめ〳〵さりせいくつもしとかこ万葉
うまもしきれいふつかのさき
みはおりけるもとしは
をおりいるをさしるあり
う夢のうちなるをおれあを
ひとしかるつくやしかつか

れくるまつりまつる二の文
乃ぶとうたうおよびけるをあし
まりのまつおくとおぼしくをあ
りをいとつくしく羊くなりいの
のしれるもるこの巻となくいく
らうけ御をうちあまを親といえ
をいるもはんくらまとり
をれりくくらいちはし
いとんるるんまりゆい御こりを
りうとにあをしくなるおりを
内の大ちんの手とんりまとんれも
ちのまへとし主いの角さしなくうす角
れまりしくしくいくあるむ

いつはこゝにさそこのゝふるさとに行ぬ
ほとゝぎすらいなく下ものおもしもとゝ
のゝ草やありもん所の門もいとゝ
あらし上まとゝやのもゝしもとゝあ
おのゝくのんかハさりとゝかゝわい絵
ともしいとかわゝるてさるまし筆
をおしとゝたくわゝとゝもんを意
し給しあり人あこうゝの
かゝしもしつらふいてとの人
ゝるとゝとゝゝをとけまし絵で
うまとゝハふくれゝうゝみとく
りてゝるとゝあゝうにうてゝとめた
ゝうゝをを出来そうゝにさのゝ

ゝのしいまゝ
よのとゝハさゝゝ
ゆゝしゝゝかゝ
つきせものゝくゝ
ふゝゝまゝ
ふくゝゝとゝ
くしはゝゝ
ふゝゝとゝよゝ
おゝしゝゝ
ゝつゝくさゝ
ゝとゝゝゝ
器のゝゝゝ
やまゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]をのくすくせのかをちおし
[illegible]すくおりしのてをいとかいとけんとは
かくのこれのしかたれの三位のを
[illegible]口宮今八四位の位をとく高位の
御ともものまゝきをのぶまつるをせの
にうちをいくおしきをくいあるく
ちくをの御をうをうをおしい出くをつ
[illegible]をれをとれはうをあるをかて
をろにおろけをくりれしこれあ
をきをのをおろをろふつかのはをを
小をうをや三人おりしすきしにを
きしかん御をうちをも八人の御をを出
たりしををひをつ角をおをしをれ

きをくおりしのをひをろ一の御子八をを
おりをまて御をりをりを坂にをりをし二ノ
をへはむしの乃はをいをくやおをりをり
[illegible]都をとをきを人をろ三八をを中をを日を
くをりをを御をくをを記はをを
をくをつをををををを十日をを
南殿のをくいつを(五)のをををを行
をりをれを御をを一をすをををてを
をくの名をををををを三の名
ををををををををを一をを火のを人をや
ををををををををを御をくをを記
御歌月をを本をを小をくを行をこれ八月のを
をくの小をををのをを姫君をををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みなくおもしろうのしく儀にみさうづ
とさしまいくむ一ツの所はさ
つまおくのまいくさてをわれもし
ちいさにかをさあげておもしとり
しをふしすくふたとを
ゆりく今まてくて色しゆちゆ
つまくおく人くおりひとりもし
しかをさ色けあるまくさふ
おもしなくさどくくくさふと
すくつもしてんかかをさんくあ
りくさくさくまのあるくさうにまと
ふくくしより一日とありふしをふ
まて色しなるとつしゆをハ今ハ

見れも出てしにまりさむくさて
義人とおなくくりもくとのまハ
そうさあるかかにくゆをおゆ
けとさかくうのをきせるかかの
所ふあるのおりふかさをとへる
くむ所つくくおをさ所ゆもかか
きまくくとりきをちかくいそおを
ふくくりていかけの所くをとし
やまくまくおひゆくくくくへ
ゆくばをれはけかくおりしかさ
又よのあるまもかかにくさ
のをくくをゆをまくかはひろ
ごりをこりぬしとるくすきまけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大悟

山のおくのおくのおくのしら
んのおくのさらにさらにさらに
そこづいそこそこそこと
いさこうりんすることもおもく
ゆるハとのくんをもおもく
こハいかゆめのよの中
大悟ハあるにそこやこハいかとて
あるハなしといふもしハなをさとる
ふむどくのこゝろをしれ
とくついさとりこそまいたこの花
をこゝろの秋のあきをあくあとし春ふ
くのそのくるふハ方さのこゝをあいし

大ひの光ハ三ケのあとをさとる光背
ほんハ六しゆのをとをちらをを桜月
とりてあをふ友ゝハ光の風をを念
し春の花をを忘いる人ハをそのけ
乃雲ゝ乃ゝをのあんをやをんん
角んの中ふをん山らんをれをわひ松
ををふハ春をの色をれをろ大意のし
ををくハをくをのをんををを大悪
のやゝくハむやゝろをんををををむ
いのををハををいハ乃角ををす六をハ忘
よの志西を松乃ゝ西の命ハ三毒
志西つせをの火のをし火ををを
をゆゝふし春をの水をををと

なんとなんでまふまにそたくそよのあしまとつて人はりさくなん

ひとりよ

よの中のいとねさうしくのまとをとおりふんのミおかくさらひるしミ事まふくかさりはて大原の二の文はしたちの女ねの君むしおかあの所げもひとあつしはして三条の君たちのもとをなかすの祝ふたりはしこのさつてあついまふまとはるとしまたとおもしはしの十日たりしあはきさうはたまりひくつるつる後の人をとををいさをて尺結ふて夢もの中ちひたりのの始のかうこゝろはとえうなくきこゝの日にて

うとをのやくきやひとりをのはさむしをかなくやくらん

むしは野しく小雪うしやひふたなをの結はをうつひとりふをつる雪

あといはをとをきてやひくたをの詠

そをつをつをつ人西北をたをたく

ワ身をとんとくきはとるん

なをくはをとくをすはとくをんとふ祝面

ハをとのふくちんくをしをこるの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三ゐ卜源氏上人

何もんとの八ゑ一とりむすん

いれをひつてこうあなり

いてゝうまれたりくいてにゝゐ

うつきゝまれをたまつくらんと

めされゝやまくゝ何れも

ゑをたゝくひのゆくゝをきまも

三ゐのせいとゝゐこゝもとすて

今の御をいしもきりしもさむ

御をたに御んゝけて角つゝ大ゐ

ゝも玉あるましくゝ寄ゝんとを

いりゝきりゝをつゝゐゝきゝ卜ゝ

ゝゝと卜上をもひゐゝとあり

一源氏六拾帖内六拾帖ハ世間ゝ

ゆゝゝゝいゝゝゝ六帖ハ源氏ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秘事ゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

明さん方へ行くりまをゝしえ
りをつかし書写物あり御免来
古連歌おりて秘事しし

寿山